



野鳥の動きがいつもと違う冬2022-23

2022-23年の冬(今冬)は、冬鳥をはじめとした野鳥の動きがいつもと違うと感じています。

●ツグミ…■例年10月下旬には渡来し、1月まで多く滞在し、厳冬期に数羽に減ります。

□今冬は12月になってようやく現れ、1月いっぱいよく見られ、2月に入っても多く見られています。ただ、1月下旬から旭山では数が少なくなっており、一方で市街地の公園や街路樹などで数が増えていて、30、40羽の大きな群れで見られることもあります。



●ヒレンジャク…■例年10月下旬に渡来、1月中旬に南へ移動します。

□今冬は11月下旬になってようやく現れ、2月に入ってもまだ滞在しています。

●キレンジャク…■例年ヒレンジャクの中に2、3羽混じったり、初冬に50羽前後の群れが見られたりです。

□今冬もそうでしたが、2月に入っても50羽前後の群れが見られました。

キレンジャクは旭山では数年に一度集団で越冬し、その他の年は真冬には見られないという不思議な出方をしますが、今年はどうなるでしょうか？ 南下が遅れている可能性もあります。



●キバシリ…■例年10月に山から降り低地で見られるようになります。

□今冬は大幅に遅れ、2月に入っても観察機会が増え、囀りもしています。

●マヒワ…■例年10～20羽の群れが日に何度か見られ、数が少ない年でも数羽が日に一度は見られます。

□今冬も1月上旬まで10羽前後でよく見られていたものの、1月中旬以降ほとんど見られず。マヒワがこれだけ少ない冬は珍しいです。

●イカル…■夏鳥ですが過去に越冬したことがあり今冬も見られています。

●ミヤマホオジロ…■例年10月から11月に数日間滞在。□今冬は12月中旬に1週間ほど見られました。

●シマエナガ…■例年12月から2月上旬までは10羽以上の大きな群れで行動し、観察・撮影しやすくなります。

□今冬は1月から10羽以上の群れの観察情報がなく、2羽から5羽の小さな群れで見られ、早々に群れが別れたと考えられます。また例年、小さな群れで行動するようになると見られる頻度が高くなりますが、1月中旬にはもうその状態になっていて、およそ1カ月行動が早まっています。



◎これらの動きに共通する要因として、夏から秋そして冬にかけて日本やそれより北の冬鳥の繁殖地において気温の高い状態が続いたことによる影響が考えられます。気温が高いと植物の種子など遅くまで食料がたくさんあり、南へ渡る時期も遅くなるのでしょう。キバシリの場合は当初山地で食料が足りていたため低地に降りるのが遅れたとも考えられます。

◎夏鳥や旅鳥の目撃情報も続々と…1月にマミチャジナイ、2月にシロハラ(以上秋と春に通過する旅鳥)、メジロ(夏鳥)が観察されました。市内近郊では夏鳥のトラツグミも観察されているようです。

ただしこれらは「通常の」冬でも、渡りが遅れたか留まっている個体が単独もしくは数羽で見られることがあって、今年だけの動きではない可能性もあるため、ここでは別の話として取り上げました。

◎一方、カケス(亜種ミヤマカケス)、キクイタダキ、シメは数の多寡はあっても例年通りの動きをしています。ベニヒワは元々年により越冬したりしなかったりで、今冬は越冬していません。

ウソは7、8年前から見られる機会が減っていてその流れが続いています。

◎ただし、「例年」と書きましたが、2021-22年の冬(昨冬)は記録的に冬鳥が少なかったため(詳しくは2022年1月号をご参照ください)、今冬はそれに比べれば野鳥がよく見られているとはいえません。

いつもと違う鳥の動きは何か気になる、気がかりでもあります。



レストハウス「ぼるく」は4月より営業します
噴水も4月下旬より運転開始します

旭山野鳥メモ④⑥アオシギ

アオシギ Solitary Snipe *Gallinago solitaria* チドリ目シギ科

旭山では過去に何度か秋から冬に観察されているがもう10年近く確かな観察情報がない。西岡公園で時々見られる。シベリアなどユーラシア大陸北部で繁殖し秋は南に移動。日本では冬鳥。

溪流にたいてい1羽だけでひっそりと暮らし、開けた明るい場所にはほとんど出てこない。旭山でも、つり橋下の双子沢川と道路沿いの旭山川、今まですべて川沿いの谷で観察されている。

写真は道内他所で撮影したものだが、川べりにじっとたたずみ、見ている間10分は動かずに長い嘴を川に突っ込んで、どうやら流れてくる水中の虫などをすくって食べている様子だった。その後「ジェツ」といういかにもシギ類らしい声で鳴きながら川面低くを飛んで逃げ、川岸に上がったところで見えなくなった。その辺りでくらしているらしい。

1羽でひっそりとくらす様子から、英名“solitary”、学名の種小名(2つ目の単語)にも“solitaria”＝「孤独な」とあてられるほど、寂しい印象を受ける野鳥。こんな野鳥が意外と身近にいるかもしれない、ぜひお見知りおきをおいと思ひ取り上げた。旭山では現時点で最もレアな種ではあるだろう。また見られるといいのだが、かつて見た冬につり橋を渡るたびにアオシギがいなか探るのが癖のようになっている。



2023年2月の野鳥トピックス

今月の野鳥の動きについては、表の特集もご参照ください

- ・クマゲラ: 昨冬よりも園内での観察情報が増えています
- ・ヤマゲラ(右写真): 観察機会が増え、近くで見られることもあります
- ・オオアカゲラ: 観察機会は多いですが雌を見る機会が増えました
- ・アカゲラ: 「キョキョキョ」と鳴いて追いかけてくる姿が時々見られます
- ・コゲラ: 警戒心が薄いため近くでじっくり観察できる機会もあります
- ・キクイタダキ: ミュンヘンの森など針葉樹でときどき見られています
- ・シメ: あまり低い位置には来ないですが観察機会は多いです
- ・カワラヒワ: 今冬は越冬し学びの森周辺で観察機会が多いです
- ・ミソサザイ: 沢沿いでときどき見られており、「ジッ、ジッジッジッ」と鳴きながら地面低くを移動します
- 囀りをはじめた野鳥: ハシブトガラ「ピーピーピー」、ヤマガラ「チーリーツー」、ヒガラ「ツピーツツピーツ」、ゴジュウカラ「フィーフィー」「フィッフィッ」 ※シジュウカラはまだ囀りを聞いていません



樹木の冬芽を見てみよう

旭山記念公園で見られる樹木の冬芽・葉痕を10種類紹介します。さて、何に見える、何かに見える！？



オニグルミ: 猿の顔



ミズナラ



キタコブシ: 衛兵帽



ヤマゲワ: たけのこの里



ハリギリ



エゾヤマザクラ



ナナカマド: 炎



シナノキ: ミトン(手袋)



カツラ: 鹿の蹄



イタヤカエデ



公式サイト

「アカゲラ通信」 第110号 2023(令和5)年2月8日発行

(公財)札幌市公園緑化協会 旭山記念公園管理事務所

<https://www.sapporo-park.or.jp/asahiya/>

〒064-0943 北海道札幌市中央区界川4丁目

電話 011-200-0311(金・土・日・祝日 10時~16時) FAX 011-200-0351